

バービカンセンター(ロンドン)、コンサートヘボウ(アムステルダム)、
コンツェルトハウス(ウィーン)に続く《平井元喜ワールドツアー2016》待望の東京公演!!



詩的センスでヨーロッパを魅了するピアニスト

平井元喜 ピアノリサイタル

MOTOKI HIRAI PIANO RECITAL as part of the World Tour 2016

7月1日(金) 7:00 pm

銀座・王子ホール(銀座三越裏)

Friday, 1 July 2016 Oji Hall, Ginza, Tokyo

“比類なき音楽性”

(英ガーディアン紙)



〈お話〉冷泉貴実子

ベートーヴェン: ピアノソナタ第27番 小短調 作品90
Beethoven: Sonata No.27 in E minor, Op.90

シューベルト: ピアノソナタ第21番 変口長調 D 960
Schubert: Sonata No.21 in B-flat major, D 960

～委嘱新作～ (2016)【日本初演】

平井元喜: 小倉百人一首による《音詩》(選: 冷泉貴実子)
Motoki Hirai: Tone Poems on Hyakunin-Isshu (2016) [Japan premiere]
(Commissioned and Selected by Kimiko Reizei)

平井元喜: Grace & Hope ～祈り、そして希望 (2011)
Motoki Hirai: Grace & Hope (2011)
- Dedicated to the victims and survivors of the Earthquake

ショパン: マズルカ第41番 嬰ハ短調 作品63-3
Chopin: Mazurka No.41 in C-sharp minor, Op.63-3

ショパン: ノクターン第4番 へ長調 作品15-1
Chopin: Nocturne No.4 in F major, Op.15-1

ショパン: スケルツォ第2番 変口短調 作品31
Chopin: Scherzo No.2 in B minor, Op.31

全席指定: ¥5,000

王子ホールチケットセンター 03-3567-9990
東京文化会館チケットサービス 03-5685-0650
CNプレイガイド 0570-08-9990
e+ (イープラス) <http://eplus.jp>

コンサートマネジメント: ミリオンコンサート協会
03-3501-5638



“作曲家の意図を的確にとらえ、同時に作品の本質を見抜いていた”
(サンデー・タイムズ紙)

“繊細なタッチ、多彩な音色を備えたダイナミックな演奏”
(ガーディアン紙)

“平井元喜の演奏は洗練されたものであり、聴衆に強い印象を与えた。それはあたかも、私たちの時代における最高の音楽への扉を少しずつ開いていくような格調高い演奏であった。”
(エル・ムンド紙)

PROFILE

平井元喜(ひらいもとぎ)

ピアニスト・作曲家。1973年、チェリスト平井丈一郎の次男として東京に生まれる。祖父で作曲家・平井康三郎にピアノと作曲を、祖母にヴァイオリンを学ぶ。桐朋高校を経て、慶應義塾大学文学部哲学科卒。99年、英王立音楽院大学院ピアノ科卒。同年、“サー・ジャック・ライオンズ音楽賞”受賞。フランク・ウィボー、ジェームズ・ギブ、パツィー・トウ、ジョセフ・セイガー各氏に師事。00年ロンドン・シティ大学修士課程修了。これまでロンドンを拠点にヨーロッパ、アフリカ、中東、アジア、北米、中南米各地を演奏旅行。

2011年、カーネギーホール(ニューヨーク)でデビュー・リサイタルを行い絶賛される。ロンドンでは、“室内楽の殿堂”ウイグモアホールやカドガンホールなどでしばしばリサイタルを開催し、いずれも高い評価を得ている。14年、カーネギーホールに再登場し、同年オランダのコンサートヘボウ・デビューを果たす。09年以来、スメタナホール(プラハ)、モーツァルトホール(ブルノ)などでチェコ・ヴィルトゥオーゾ室内管弦楽団と協演。2016年以降は、ウィーンのコンツェルトハウス・デビューに加え、バービカンセンター(ロンドン)、コンサートヘボウ(アムステルダム)、銀座王子ホール(東京)など世界各地をリサイタルツアー、またスペイン、ポルトガル、イタリア、ラトビア、北アフリカ、南米などでコンサート、コンチェルト、フェスティバル出演などを予定している。

作曲家としては、ピアノ曲、室内楽曲から映画音楽まで幅広く手がけ、その作品はカーネギーホール(NY)、全米桜祭り100周年オープニング(ワシントン)、サウスバンク・センター、ウイグモアホール、セント・マーティン・イン・ザ・フィールズ、ユニコーン劇場、セント・ジョンズ=ミス・スクエア、ダリッジ・フェスティバル、チェルシー・フラワー・ショー(以上ロンドン)、ブルックス・フェスティバル、ペガサス劇場(オックスフォード)、コンサートヘボウ(アムステルダム)、パリ日本文化会館(フランス)、ミラノ万博2015(ミラノ)、カザルス音楽堂(パルセロナ)、カルチュラル・サマー・フェスティバル(ブラチスラヴァ)、国立ピクチャー・ギャラリー(リトアニア)、カメリ劇場、ハイファ美術館(イスラエル)、アルカサバ劇場(パレスチナ)、ダニエル・ソラノ国立劇場(ダカール)、NHKホール、東京オペラシティ、浜離宮朝日ホール、ラ・フォル・ジュルネ2016(以上東京)など内外各地で演奏されている。

室内楽奏者としても活躍し、ヴィルニウス弦楽四重奏団、マイケル・コックス、カールマン・ベルケシュ、ドゥードゥー・ンジャイ・ローズら世界的アーティストとの共演はいずれも高い評価を受けている。一方、邦楽・歌舞伎・ダンス・演劇・落語・建築・映像・写真とコラボレーションを行うなど多彩な活動を展開。2007年より芸術監督・作曲家・プロデューサーとして、国際文化交流・教育プロジェクト《日本の民話絵本を世界へ》(朗読・映像・音楽のコラボ)を主導し、世界各地の民話とともに海外へ紹介、上演を続ける。また、2020東京五輪・パラリンピック文化プロジェクトとして、第一生命ホール拠点のトリトン・アーツ・ネットワークと共催で《世界を結ぶ民話と音楽の祭典》開催を目指す。

音楽を通じて平和・環境・医療・教育問題にも積極的に取り組んでおり、国連(UNESCO、UNICEF)、赤十字社、英王立マースデンがんチャリティ、ジャパソサエティ、桜ライン311(陸前高田市)、東日本大震災ふくしまこども寄付金(震災遺児支援)などを通じて各種チャリティー・コンサートを行う。3.11以降はスタインウェイ社らの協力を得て、復興支援チャリティー・コンサートや被災地慰問コンサートを30回以上に渡り継続。

1994年より外務省および国際交流基金の派遣により芸術使節として10数カ国で公演。日本・英国・デンマーク・スウェーデン・オマーンなど世界の皇族・王族のご来臨を得て演奏する。これまでBBCをはじめ世界各地でテレビ・ラジオに出演し好評を博す。日本ではNHK“名曲リサイタル”、テレビ朝日“題名のない音楽会”等に出演。NHK文化センターや時事通信社“トップセミナー”などで講演。また、連載フォトエッセイ「国境なき音楽紀行」(Euro News誌)など、写真や執筆も行う。ピアノソロ・室内楽などCD録音も多数。現在、イギリスを拠点に欧米各地で活躍し、その類いまれな音楽性と詩的センスは世代を超えて共感を獲得している。

www.motoki-hirai.com

冷泉貴実子(れいぜいきみこ)

1947年、冷泉家(※)第24代(ためとう)の長女として京都市に生まれる。京都女子大学文学部東洋史学科卒業、同大学院修士課程修了(日本史専攻)。第25代(ためひと)夫人。現在、公益財団法人冷泉家時雨亭文庫常務理事、事務局長。冷泉家唱歌会で冷泉流歌道を指導、全国各地で和歌に関する講演などを行っている。著書は、「冷泉家の年中行事」(朝日新聞社)、「冷泉家の歴史」(共著/朝日新聞社)、「冷泉家の花貝合わせ」(共著/書肆フローラ)、「京の八百年(やおとせ) 冷泉家歌ごよみ」(京都新聞出版センター)、「冷泉家 八百年の『守る力』」(集英社新書)、「花もみち」(書肆フローラ)、「もっと知りたい 京都・小倉百人一首(※)」(監修/京都新聞出版センター)など多数。

※「冷泉家」は、平安から鎌倉時代にかけての藤原俊成・定家の父子を祖とする藤原氏の家で、代々和歌を家業として宮廷に仕えた。明治維新後も東京に移らず、京都の地で俊成・定家以来の文化財を今に伝えている。昭和56年(1981)財団法人冷泉家時雨亭文庫を設立し、伝来の文化財の保存に努めている。

※「小倉百人一首」は、藤原定家が京都・小倉山の山荘「時雨亭」で百人の歌人の和歌を一首ずつ選んだことに由来する。